

株式会社ヒカリ

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

第2回モニタリング報告書



2026年2月27日

目次

1. 株式会社ヒカの企業概要.....	2
2. 目標達成に向けた進捗状況	3
3. 総評.....	5

1. 株式会社ヒカリの企業概要

企業名	株式会社ヒカリ
設立	1954年2月25日
代表者名	代表取締役社長 西森 浩史
資本金	9,600万円
従業員	59人（2026年1月末）
事業拠点	本社（香川県丸亀市田村町1238） 高松支店（香川県高松市伏石町2130-4）
関連会社	(株)四建プラント（電気・給排水設備工事業） (株)アルベジオ（保育園、放課後児童クラブ等）

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	施工工事の環境対応～サステナブルなまちづくり
内容・対応方針	ZEH認証取得住宅・ZEB認証建物の受注強化 低燃費車両の導入や設備更新によるエネルギー消費量の削減 リサイクル建材の導入促進・産業廃棄物の排出削減
KPI	①2030年までにZEH水準住宅受注率を100%必達 ②2030年までに産業廃棄物の発生を2020年比50%削減する
KPI進捗状況	①2025年9月期のZEH水準住宅受注率：100% 2025年以降の新規案件は、全てZEH水準の住宅に標準化している。 ②2025年9月期実績：11.1%削減（2020年9月期比） 現場にて産業廃棄物の分別を行ってきたが、混載、木材、スクラップだけでなく、段ボールも分別し処分を行うように努めている。

項目	内容
インパクト	福祉施設建設・訪問看護事業の強化～いつまでも笑顔あふれるまちに
内容・対応方針	訪問看護件数の増強と要介護度の維持・改善 福祉施設運営の支援の質の強化
KPI	2030年までに訪問看護月間利用者数を月平均で2023年9月期比130%増加 （2023年9月期:月間100名）
KPI進捗状況	2025年9月期実績：113%増加（2023年9月期比） 提供するサービス（日常生活の援助、医療処置・管理、ターミナル・看取り、精神看護、リハビリテーション、認知症の看護 等）の向上に向けた取組みを実施。 また、ケアマネージャーとの連携を強化し、報告書等のやり取りを徹底。 利用者様との信頼関係を築くとともに、利用者様の家族のケアも行っており、高い評価を得ている。

項目	内容
インパクト	建築物の強靱化～安心して住み続けられる地域づくり
内容・対応方針	「旧耐震基準住宅」の耐震性能向上 災害対応力強化型公共施設建設への関与
KPI	2030年までに住宅耐震リフォームの年間受注件数10件を達成する
KPI進捗状況	耐震リフォーム案件の年間受注実績（2025年9月期）：4件 HP、Instagramの更新、耐震補助金のアピールを行い、案件獲得及び受注を行っている。

項目	内容
インパクト	人材育成と人材定着の強化～安心して活躍できる職場づくり
内容・対応方針	1on1ミーティングによる組織内コミュニケーション活性化とエンゲージメント強化 メンター/人事評価制度の再構築による社員一人一人のモチベーション向上 業務見直しによる特定業務の属人化解消と業務効率化
KPI	①離職率7%未満を毎年維持する ②2030年までに1人1時間当たりの営業利益を2020年比30%向上させる
KPI進捗状況	①2025年度の離職率：2% 賃上げ（ベースアップ）の実施や有給休暇の取得を推奨する等、働きやすい職場づくりに注力している。また、2025年4月から完全週休2日制とし、仕事とプライベートのメリハリができ、モチベーションアップに寄与するものと考えている。 ②2025年9月期の1人1時間当たりの営業利益：9,042円の改善（2020年9月期比） 1件当たりの利益率向上に向けた取組み（当社オリジナルの付加価値を付けたサービスを提供する等）を実施しており利益率が向上。 また、施工時には、無駄を省き生産性の向上に努め、小工事の利益率も向上。

項目	内容
インパクト	様々な主体との連携～共に目標を持ち成長し続ける
内容・対応方針	協力企業と組織する「安全協力会」にて安全管理・災害予防対策を推進 安全パトロールの強化 最新施工法の勉強会・協会員同士のスキル共有会開催 適正価格での受発注と施工単価の適正化
KPI	2030年までに協力会安全大会（事故・災害ゼロに向けた優れた取組みを表彰する大会）での新規表彰者をのべ10社・10名誕生させる
KPI進捗状況	令和7年度安全大会の新規表彰：1社、6名 これまでの累計：2社、12名 高松方面の現場で日々の安全衛生活動に協力的であったことより、新規表彰となるもの。 また、当社だけでなく、安全協力会と共に安全管理活動を強化。 当社と安全協力会の連名による「現場労働災害撲滅に関する通達」文を作成のうえ、各現場に掲示。当社だけでなく、安全協力会と共に安全管理活動の強化を図っている。

3. 総評

早期の目標達成に向け、インパクトへの取組みを当初よりも強化しているものが複数見受けられた。

ZEH水準の住宅を標準化させており、地域のカーボンニュートラル推進のリーダー的存在になっている。訪問看護事業においては、関係各所との連携を強化し、利用者への提供サービスの充実を行うことで、利用拡大を図っている。働き方についても、賃上げ（ベースアップ）の実施や有給休暇の取得を推奨する等の働き方改革に加えて、付加価値を意識した業務指導や協力企業とのコミュニケーション強化を行い、安全で、生産性の高い職場づくりを進めている。

百十四銀行も、ビジネスマッチングを通じた環境負荷軽減につながるサービスの紹介や、福利厚生支援、当社との住宅ローン連携などの各種支援を行い、当社のマテリアリティへの取組みをさらに加速させていきたい。